

平成 7 年 度

秋田県環境技術センター年報

第 2 3 号

(1995)

秋田県環境技術センター

はじめに

秋田県環境技術センター（旧秋田県公害技術センター）が昭和45年に発足してから25年が経過しました。

この間、環境政策の理念は、直接的な産業公害規制から住民参加による快適な環境づくりを目標とした、環境保全型社会の形成へと発展し、大量生産大量消費、大量廃棄型の社会経済活動や生活様式が問い直される新たな局面を迎えております。

当環境技術センターでは、このような情勢変化に即応するため、皆様のご助言、ご協力を得ながら業務内容の質的発展を求めて所員一同鋭意努力をして参りました。

平成7年度は、継続して実施している大気、水質等の環境監視等業務のほか、今日大きな環境問題となっている課題について、秋田県の状態を明らかにし適切な対策が講じられるよう「酸性雨・酸性霧に関する調査研究」、「大気中の低沸点有機塩素化合物に関する調査研究」、「河川水中における未規制化学物質の検索と定量に関する調査研究」やダムの富栄養化対策のための「人工湖の水質汚濁機構解明に関する調査研究」を行ったところです。

これからも所員一同、研鑽を積み環境保全行政に資するた鋭意努力して参る所存ですので、本年報をご高覧いただくとともに、ご批判、ご指導を賜れば幸いに存じます。

平成9年1月

秋田県環境技術センター
所長 伊藤 昇